

# 拊掌談

芥川龍之介

青空文庫



## 名士と家

夏目先生なつめの家が売られると云ふ。ああ云ふ大きな家は保存するのなに困る。

書齋しよさいは二間ふたまだけよりないのだから、あの家と切り離して保存する事も出来ない事はないが、兎とに角かく相当な人程小さい家に住むとか、或は離れの様な所に住んでゐる方が、あとで保存する場合など始末しまつがよい。

帽子を追つかける

道を歩いてゐる時、ふいに風が吹いて帽子が飛ぶ。自分の周囲の凡てすべに對して意識的になつて帽子を追つかける。だから中々帽子は手に這入はいらない。

他の一人は帽子が飛ぶと同時に飛んだ帽子の事だけ考へて、夢中になつてその後を追ふ。自転車にぶつかる。自動車に轢ひかれかかる。荷馬車にばしやの土方に怒鳴どなられる——その間に帽子は風あひだの方向に走つてゆく。かう言ふ人は割合に帽子を手に入れる。

しかしどちらにしる人生は結局さううまく行くものではないらしい。余程よほどの政治的或は実業的天才でもなければ、楽々と帽子を手に入れる様な人は恐らく居あないだらう。

## 不思議一つ

安月給取りの妻君、裏うらながや長屋のおかみさんが、此の世にありもしない様な、通俗小説の伯爵夫人の生活に胸ををどらし、随喜ずゐきして読んでゐるのを見ると、悲惨な気がする。をかしくもある。

「キイン」と「嘆きのピエロ」

最近輸入された有名な映画だと云ふ「キイン」と「嘆なげきのピエロ」の筋を聞いた。

筋としてはキインの方が小説らしくもあり、面白いとも思ふ。  
大抵たいていの男はキインの様な位置には割になれ易いものである。大抵の女は、キインの相手の伯爵夫人の様な境遇には置かれ易いものである。

嘆きのピエロ夫妻の様な位置には、大抵の人達は、一生に一度もなり憎にくい事である。まして虎に咬かみつかれる様な事は、自分自分の一生を考へてみた所、一寸ちよつとありさうもないではないか。これが若し虎ぢやなしに、犬だつたら兎とに角かく。

## 映画

映画を横から見ると、実にみじめな気がする。どんな美人でもペチヤンコにしか見えないのだから。

又

映画はいくら見ても直ぐにその筋を忘れて仕舞しまふ。おしまひには題も何もかも忘れる。見なかつた前と一ちよつと寸も変りがない。本ならどんなつまらないと思つて読んだものでも、そんなにも忘れる事はないのに、実に不思議な気がする。

映画に出て来る人間が物を云つて呉くれたら、こんなにも忘れる事はあるまいとも考へて見る。自分がお饒しゃべり舌べりだからでもあるまい

が。

## 犬

日露戦争に戦場で負傷して、衛生隊に收容されないうで一晩倒れてゐたものは満洲犬にちんぼこから食はれたさうだ。その次に腹を食はれる。これは話を聞いただけでもやり切れない。

### 「辨妄和解」から

安井息軒やすゐそくけんの「辨妄和解」べんまうわかいは面白い本だと思ふ。これを見て



みると、日本人は非常にリアリスチックな種族だと云ふ事を感じる。一いっぽん般の種々な物事を見てゐても、日本では革かく命めいなんかも、ぞんぐわいざんふさ存外雑作なく行はれて、外国で見る様な流血革命の惨さんを見ず  
に済む様な気がする。

## 刑

死刑の時絞首台迄一人ひとりで歩いてゆける人は、殆ど稀ほとんまれださうだ。  
大抵は抱かかへられる様に台に登る。

米国では幾州か既すでに死刑の全廃が行はれてゐる。日本でも遠か  
らず死刑と云ふ事はなくなるだらう。

無暗むやみと人を殺したがる人に、一いつしよ緒しよに生活されるのは、迷惑な話ではある。だがその人自身にとつて見れば、一生を監禁される——それだけで、もう充分なのだから、強ひて死刑なぞにする必要はない筈である。

又

囚人しうじんにとつては、外出の自由を縛しばられてゐるだけで、十二分の苦しみである。

在監中、その人の仕事迄取りあげなくともよささうなものである。

仮に僕が何かの事で監獄かんごくにはいる様な事があつたら、その時にはペンと紙と本は与へて貰ひたいものだ。僕が繩なはをなつてみたところではじまらない話ではないか。

又

学校にゐた頃の事、授業が終つて二階から降りて来た。外にはいつの間まにか、雨がざあざあ降つてゐた。僕は自分の下駄げたを履はく為に下駄の置き場所へ行つたのである。そこにはあるべき下駄げたがなかつた。いくら捜さがしてもない。僕は上草履うはぎうりをはいてゐた。外には雨がひどく降つてゐる。

全く弱つて仕舞<sup>しま</sup>つた。併<sup>しか</sup>しそこには僕のでない汚<sup>きたな</sup>い下駄は一足あつたのである。それを欲しいと思つた。とりたいたいと思つた。結局その時はその下駄をとらなかつたが、あの場合あの下駄をとつたとしても、それは仕方のない事だと思ふ。

(大正十五年二月)

# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

# 拊掌談

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>